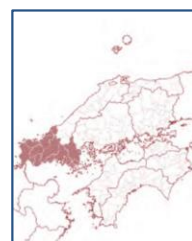
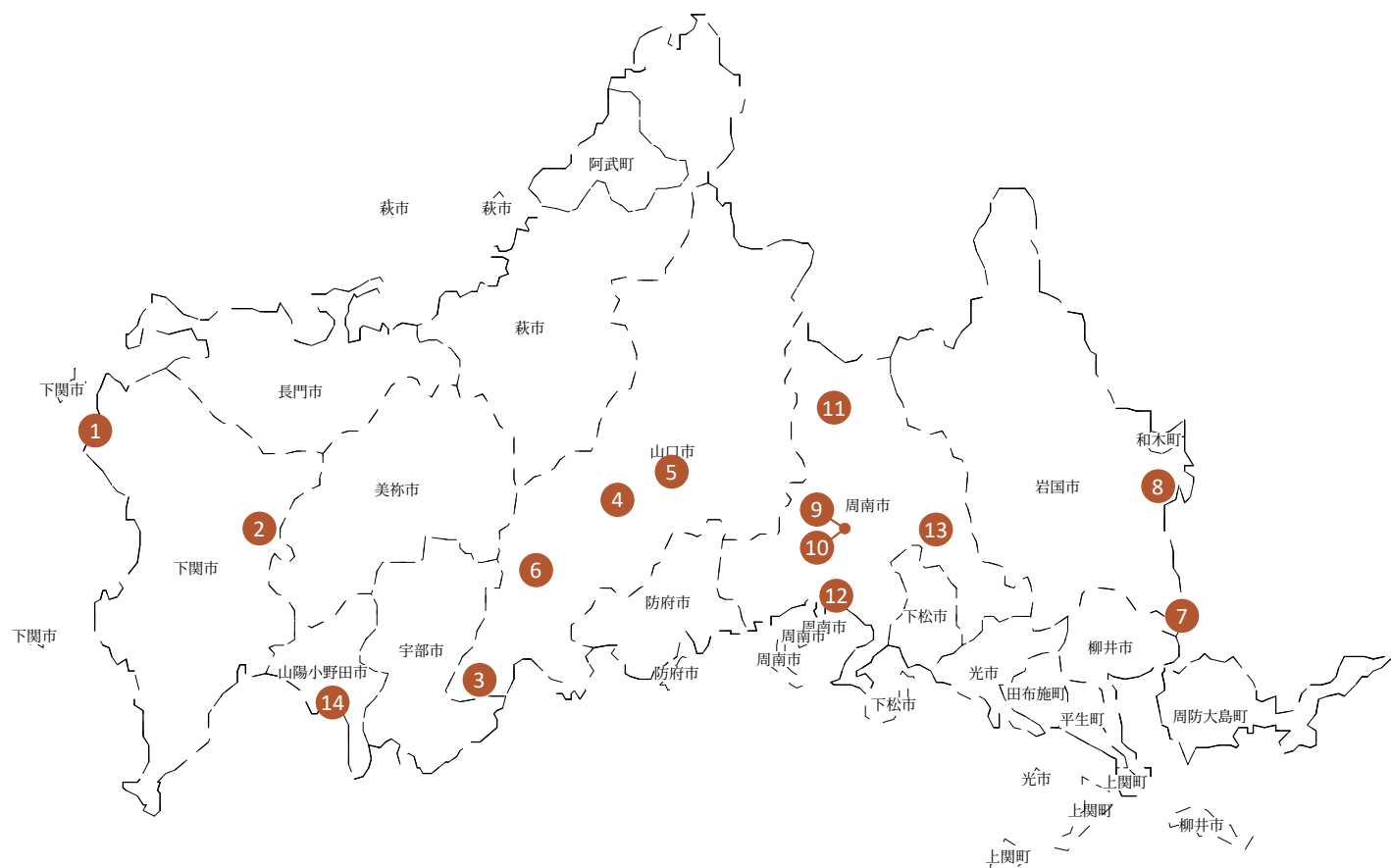


山口県

「ディスカバー農山漁村 むら」の宝」第12回選定）応募団体等 一覧（山口県）

No	選定 団体	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		団体	下関市	株式会社道の駅豊北	農業	地産地消	高齢者の活躍
②		団体	下関市	ホテル舟実行委員会	農村文化体験	農村環境・景観保全	
③		団体	山口市	株式会社あぐりてらす阿知須	農業	伝統の継承	教育機関との連携
④		団体	山口市	株式会社ときつ養蜂園	農村文化体験	食育・教育	農村環境・景観保全
⑤		個人	山口市	白木 美和	6次産業化	荒廃農地対策	食育・教育
⑥	地方 奨励賞	団体	山口市	八方原の環境を守る会	農業	農村環境・景観保全	その他
⑦		団体	岩国市	株式会社デナリファーム	農業	教育機関との連携	農福連携
⑧		団体	岩国市	企業組合 尾津っこ	6次産業化	地産地消	女性の活躍
⑨	地方 奨励賞	団体	周南市	大道理地区百笑倶楽部	棚田保全	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑩		団体	周南市	大道理をよくする会	地産地消	関係人口の創出	
⑪	地方 奨励賞	団体	周南市	「鹿野の風」プロジェクト	移住・定住	農村環境・景観保全	関係人口の創出
⑫	地方 奨励賞	団体	周南市	HOVCHA	荒廃農地対策	農福連携	関係人口の創出
⑬		団体	周南市	棚田清流の会	農村文化体験	棚田保全	関係人口の創出
⑭		個人	山陽小野田市	伊藤 徹一郎 AgleafZERO株式会社 代表取締役)	農業	6次産業化	地産地消

応募団体等所在市町図（山口県）



かぶしきがいしゃみち えきほうほく
株式会社道の駅豊北

みんなの笑顔が好きだから 〜いつもきれいに！〜いつもっさわやかに！

概要

- 平成23年5月、地元商工会などが、地域の農林水産物の小売や飲食、公共施設の維持管理業務を行うことを目的に設立。
- 平成24年3月、過疎化が進む下関市豊北町に市が整備した道の駅「北浦街道 豊北」の開業に伴い、指定管理者として施設の管理運営業務を担うとともに、地元産の農林水産物を原材料に加工品の開発・販売を行い、地域活性化と交流人口拡大を推進。
- SNSやマスコットキャラクター「ほっくん」を活用した情報発信・PR活動を積極的に展開。



オリジナル芋焼酎 角島「夢さき」



「ほうほく おこげせんべい」塩味・醤油味



オリジナルマスコット「ほっくん」

〒759-6121 下関市豊北町大字神田上314番地1
083-786-0111 info@michinoeki-houhoku.jp

関連情報ははこちら ▶



ふねじっこういいんかい
ホタル舟実行委員会
日本初！船上から蛍が観賞出来る『ホタル舟』

概要

- 昭和32年、木屋川が天然記念物のゲンジボタル発生地として指定を受けたことを契機に、町でホタルの飼育を開始し増殖に成功。ホタルに関連した施設整備や行事開催の取組が進み、平成3年からは川下りしながらホタルを楽しむ「ホタル舟」を運航。今年で35回目を数える。また、同時期に「豊田のホタル祭り」も開催され、町に活気をもたしている。
- ホタルの住める環境維持を念頭に、自然と共存しながら地域活性化策作りに積極的に取り組む。



ホタル舟川下り

成果

- 「ホタル舟」は、「自然環境保全しながら原価0円の集客事業」として成功。6月の17日間、木屋川を下りホタル観賞を楽しむ人気イベントに成長し、予約は初日から殺到。期間中の「ホタル祭り」には約3万人が訪れ、県外や海外からの来訪も増加。豊田町は「日本一ホタルを愛する町」として知られるようになった。
- 町内の小学5・6年生は15年前からホタル舟清掃に参加し、自然への愛着を育み、将来の行事継承を目指している。



小学生のホタル舟清掃

〒750-0441 下関市豊田町大字中村876-4 道の駅蛍街道西ノ市 内
083-766-0031 info@toyotacho.com



かぶしきがいしゃ あじす
株式会社あぐりてらす阿知須
阿知須特産品の「寒漬」を風景、文化とともに次世代へつなぐ

概要

- 山口市旧阿知須町を拠点とする農業法人。平成24年に創業者が北海道からUターン就農し夫婦で営農を開始、令和3年に法人化。現在は役員2名、正社員10名、パート5名で運営。
- 明治以前から大根を原料にした特産漬物「寒漬」が作られてきたが、15年前に地元大手漬物メーカーが廃業し供給が急減。高齢化やHACCP対応などの課題で個人農家も撤退が進む。
- 「地域の宝」を守るため、寒漬の生産風景と食文化を次世代へ継承すべく、寒漬づくりに取り組む。



樽に大根を吊るして3か月かけて天日干し



小学校で寒漬造りの出前授業



令和3年から販売している寒漬

成果

- 令和3年10月より寒漬の販売を開始し、道の駅やスーパー、百貨店などへ販路を拡大。令和5年には2万5千パックを販売。
- 地域食文化の継承に力を入れ、学校給食への提供を再開し、令和4年からは小学校で出前授業を開始。大根の種まきから加工まで体験し、寒漬の歴史も伝えている。令和7年はエリア内全小学生対象に拡大予定。
- 干し大根が並ぶ製造風景は毎年テレビや新聞で紹介され、全国ネットでも取り上げられるなど、阿知須の観光PRにも貢献。

〒754-1277 山口市阿知須1517-1
0836-65-2615 info@agriterrace-azisu.jp

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃ ようほうえん
株式会社ときつ養蜂園
ミツバチが導く、農薬を使わない食といのちの未来

概要

- 平成27年創業、令和3年法人化。化学薬剤や農薬、除草剤を一切使わないケミカルフリーな環境を徹底し、残留農薬不検出の高品質なちみつを一貫生産。農薬被害や熊被害、受粉不足といった地域課題に向き合い、古民家と園地を結ぶ循環型の場づくりを開始。
- 会員制とファンマーケットで需給を安定させ、AIによる事務効率化を推進。現場が養蜂や農作業、生命との対話に専念できる体制を構築。外国人インバウンドを積極的に受け入れ、地域連携を拡大。ミツバチ受粉が支える食料安全保障の公益性を、山口から世界へ発信。



県内外からミツバチ体験参加



地域の小学校の出前授業



ビーとぴあビレッジの構想図

成果

- 古民家を核に、ミツバチやヤギ、自然と人が響き合う理想の場を造成。「ビーとぴあビレッジ」でのCSA（地域支援型農業）による会員制を導入し、ファンとの絆を深めることで通年収益と安定した需給バランスを確立。
- 荒れた山を切り拓き蜜源を植え、ミツバチが喜ぶレンゲを肥料とした無農薬米の栽培を拡大。ミツバチ主体の環境づくりを通じて里山を再生し、新たな日本の農村文化を構築。安全性とはちみつのブランド価値を両立させながら、出前授業や見学体験を通じて次世代への地域教育を推進。

〒753-0303 山口市仁保下郷561-1
083-929-1688 info@beeslife-farm.com

関連情報はこちら ▶



しらき みわ
白木 美和

気候変動皆で生き抜くモリンガプロジェクト

概要

- 本プロジェクトに賛同する市内の小学校・学童・幼稚園を中心に、食育とSDGsをテーマに高温・少雨に強く、CO₂吸収能力が高いモリンガと一緒に栽培。特に小学校では地域課題にも目をむけて「小学生の私たちが今できること」を実践。
- 地元製茶組合と連携し、モリンガほうじ茶を商品化し販売開始。モリンガマコモ茶、モリンガ塩などラインナップを増やす。
- 超高齢化と人口減少が進む山口県瀬戸内海に浮かぶ祝島の今では米作りがわずかに軒となった棚田で、島民の若い世代の協力を得て、栽培や活用の取り組みを始める。

成果

- 製茶組合の働きかけで農業者によるモリンガ栽培が広がり、農薬不要の安全な野菜としても評価され、県内の道の駅などで販売されるまでに成長。
- プロジェクト映像をケーブルテレビやYouTubeで発信し、ワークショップを開催。モリンガパウダーを使った体験を通じ、多くの参加者にモリンガの親しみやすさを広める。



小学生が育て、収穫を迎えたモリンガの木



モリンガを育てながら地域の未来を考える



モリンガの商品化、生葉は野菜として販売

〒753-0301 山口市仁保上郷369
090-1013-6293 ma0ma1ya2@gmail.com

地方
奨励賞やかたばら かんきょう まも かい
八方原の環境を守る会

広報誌「やかたばら環境通信」で広がる共同の輪

概要

- 地域の農地、農業用水等の資源や環境を保全することを目的として組織を設立し、多面的機能支払の活動を開始した。
- 農業だけでなく、地域住民の協力が重要であるという認識から、組織の活動について知ってもらうための広報誌「やかたばら環境通信」を発行。

成果

- 平成19年の活動開始時から発信する広報誌「やかたばら環境通信」は、農業、防災、出来事など地域の問題を発信し、農家、非農家を問わず、自治会内全戸に配布を行ってきた。その結果、共同作業、地域の防災、保全活動に必要性を感じた方々が参加するようになり地域が一体となって活動を行っている。
- 近年では食農教育にも力を入れ、地元の小学校を対象に農地保全活動や農業を学べる機会を創出し、将来の後継者を育てている。



地域住民と協力して水路清掃



地元小学生の田植え作業の見学受入

〒754-0001 山口市小郡上郷4068
083-933-3423 kimura.takuya@pref.yamaguchi.lg.jp

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃ

株式会社デナリファーム

耕作面積拡大に農福連携でシナジーを

概要

- 令和元年に学生時代からの友人である元海上自衛官二人が設立。
- 「農業従事者の減少や耕作放棄地の増加問題」と「障害者の就労先の問題」の2つの課題を解決するため離農する農家から農地を借り受け規模を拡大。
- 地域に安定して働ける雇用場所を作ること、継続可能な農業経営をすることを目的に独自の雇用体系で地域の雇用に貢献。



小学生の課外授業の受入れの様子

成果

- 自由に働ける枠組みを作るためにシフトなしの自由出勤制度を導入し、働きやすい職場環境を提供する。
- 若い世代に農業へのアピールが必要と考え、農業を身近に感じてもらう取組として、学校との農業体験や職業講話を実施。また、イチゴのシーズンの毎月15日には地元の小学校に差し入れを行っている。



就労施設へ作業委託の様子

〒740-1432 岩国市由宇町神東1332番地2
0827-93-4037 denarifarm2018@gmail.com

関連情報はこちら ▶



きぎょうくみあい お づ

企業組合尾津っこ

地域を元気に！

概要

- JA岩国（現JA山口県岩国統括本部）女性部が閉業した活動の継続を目指し、平成28年に尾津っこグループを結成。
- 岩国地域の特産物である「れんこん」を余すことなく活用した、加工品づくりや地域で取れた果実を使ったジャム作り等を通じ、地産地消の推進や伝統野菜・伝統料理の継承、生産者の所得向上に取り組んでいる。
- 近年では、地域の福祉施設との農福連携の取組や小学校での食農教育にも力を入れている。



天日干しれんこん

成果

- 青果として扱われなかった小ぶりのもの、折れてしまったものなどの規格外品を利用して加工品を製造している。また、無農薬栽培したキウイやいちじくを使ったジャムを商品化し、地産地消や生産者の所得向上、環境負荷低減、若い人たちへの伝統料理の継承にも貢献している。
- 近年では、近隣小学校での調理実習に参加し、農業や地産地消の大切さを伝える食農教育にも力を入れている。



自社栽培のいちじくを加工したジャム

〒740-0032 岩国市尾津町3丁目5-50
0827-31-0295 ishitobi30@outlook.jp

地方
奨励賞

おおどおりちくひゃくしょうくらぶ

大道理地区百笑倶楽部

行ってみたい！住んでよかった芝桜の里

概 要

- 圃場整備が完了し、圃場数は減少したものの、高齢化が進んだ地域で急こう配で広い法面をどう管理するかということが課題として浮上。
- 草刈り作業の省力化を目的に、圃場法面に防草シートを張ることにしたが、労働力の問題や、真っ黒な防草シートは景観を損ねるために検討した結果、防草シートに「芝桜」を植栽することを思いついた。



「もちまき」も開催し、大賑わい

成 果

- 植栽をするにあたり、地域内外からのボランティアの募集したことや、絵文字等のデザインを地元のデザイン専門学校に依頼するなどにより、地域交流が生まれた。
- 毎年「芝桜まつり」を開催したことで、都市住民を呼び込むことに成功。「地域活性化」が推進され、更にまつりでは農産物や農産物加工品販売を行い、地域住民の所得拡大に貢献した。



ボランティアと芝桜を植栽

〒754-0242 周南市大道理1127
0834-88-1519 y-kanehira443@hotmail.co.jp

おおどおり かい

大道理をよくする会

元気！大道理ふるさとまつり

概 要

- 毎年春、夏、秋に「大道理をよくする会」が地域住民を対象に農業の知識の習得と技術向上を図る目的で野菜作りと稲作についての講習会を実施。
- 講習会では野菜の苗を地域住民に配布し、育てた野菜等は「ふるさとまつり」の品評会に出品され、賞を決定したり、出品された野菜等をセリ市を開催することで地域住民と参加者のコミュニケーションの場となっている。
- 「ふるさとまつり」を通して農業に触れてもらい農業の楽しさを知ってもらう取組を行っている。



出品された野菜等の審査、入賞札をつける様子

成 果

- 「ふるさとまつり」を通して地域住民が育てた野菜等を披露する場を提供することで住民同士の交流、地域の活性化の促進を行っている。
- 地元の中学生にイベントを周知するためのポスターデザインの依頼や、地元の徳山工業高等専門学校と共同で設置したピザ窯を使って地域の野菜をトッピングしたピザの販売等を行ったりと、地域全体で参加型の楽しめるイベントを通して地域の活性化を図っている。



出品された野菜のセリの様子

〒745-0242 周南市大道理1332
0834-88-1830 mukunosato@m2.ccsnet.ne.jp

地方
奨励賞

かの かぜ
「鹿野の風」プロジェクト
木漏れ日計画が里山に新たな価値と奇跡を生む

概要

- ピーク時1万人でにぎわった町も今では2,500人を割り、美しい自慢の里山が年々壊れていく姿に、このままで本当にいいのかと危機感を覚えたことで、平成23年に新しい風を吹込む「鹿野の風」プロジェクトを結成。
- 山間部の弱みを強みに変える、里山まるごと「木漏れ日計画」をコンセプトに、地域資源の価値を高め料と町中に1本の雑木を植えたのが活動の始まりである。



オープンガーデン初会議後の記念撮影

成果

- 「木製ベンチ」を51脚設置し来訪者の憩いの場を提供。また、10年目の平成27年には、地域の老人が残した希少植物約350種を保全する「生きた図鑑の森」保護活動や、令和2年には「里山オープンガーデン」を開催し直近では15,000人を集客。
- 令和5年には新しいコミュニティを目指し、庭造りやDIYをやりたい人が自由に参加できる「参加型わくわくガーデン」を開催し、大学や地元中学生との連携が始まった。



オープンガーデンの一コマ

〒745-0301 周南市大潮659-1
0834-68-4079 maruta@m2.ccsnet.ne.jp

関連情報はこちら ▶

地方
奨励賞

ほうびちゃ
HOVICH A

見捨てられた土地が、癒しの源に変わる。草をもう一度、宝に

概要

- 山口県周南市の限界集落・苔谷で、耕作放棄地を活用し、よもぎを無農薬で栽培。
- よもぎを“飲む香り”として再価値化し、6次産業化による発酵和紅茶、乾燥葉及びオイル製造とブランド化を推進。
- 障害福祉サービス事業所 周南のぞみ会「望みの家」や高齢農家に葉の摘み取り作業などの農福連携により就労支援。

成果

- 農地再生の取り組みは、県内3か所（周南市、山陽小野田市、周防大島町）に拡大。
- SNSやECサイトを活用し、都市部とのつながりを強化。健康志向の消費者によるノンカフェイン・無添加商品の支持を背景に、販路拡大を通じて地域への収益還元が進み、関係人口の増加や農作業の機会を創出。



農福連携・イベントで関係人口の増加



丹精込めて栽培しています



発酵和紅茶製造の様子

〒746-0012 山口県周南市政所2-1-21
090-8991-9518 yomogi.hovicha@gmail.com

関連情報はこちら ▶



たなだせいりゅう かい
棚田清流の会
くらしがいをみつけれられる郷づくり

概要

- 平成12年に行った集落点検により、予想以上に高齢者単独世帯や荒廃農地が増加している編実を改めて確認し、将来への危機感が高まったことから、将来の地域ビジョン「やすらぎの里づくり憲章」を策定したのが始まりである。
- ビジョンの実現には自治会で解決できない共通の課題に取り組む組織が重要と考え、全住民を会員とする「棚田清流の会」を発足。棚田を後世まで守っていくための関係人口創出活動を行っている。



農業体験交流会：内容説明

成果

- 第1回開催から20年を経過した農業体験交流会では、小学生のいる30家族（100名程度）向けに田植え、野菜苗植え、稲刈り、収穫祭を行っている。休耕田の有効活用を図っている。
- 棚田オーナー制度、棚田サポーターズ倶楽部、地域イベントの主催、出店する活動を通して地域を知ってもらい、次にその魅力を感じてもらう事で、地域の活動人口増加、移住促進を図ることを目標としている。



農業体験交流会：田植え

〒745-0511 周南市中須北260-7
090-5698-6521 gats.ishida@icloud.com

関連情報はこちら ▶



いとう てついちろう あぐりーふ ぜ ろ かぶしがいいしゃ
伊藤 徹一郎 (AgleafZERO株式会社)

農家発、利益対減価比率43.6%改善！新モデル

概要

- 昭和50年より露地野菜栽培を開始し、山口県菓子工業組合の契約農家として信頼を構築。平成22年より施設栽培を導入、県知事認定「エコファーマー」を取得、JA出荷を増やし売上向上。
- コロナ禍で存亡の危機に立たされるが、「なまけものCUBE®」を開発し、冷凍野菜製造工場を導入し自社ブランドを構築。
- 賞味期限を1日から1年に延長し、フードロス削減に取り組む。また、工場に出た皮を肥料に再利用し、循環型農業を実践。
- 創業者の高祖父が開発した酒米「穀良都」を復活、先祖の想いを受け継ぎ日本酒ブランド化に挑戦。

成果

- 「なまけものCUBE®」の開発により、フードロスの大幅削減効果として、平均利益率 43.6%改善、農業収益性向上。
- 地産地消の一環として、サッカー場に冷凍自販機設置。試合や熱中症対策や氷の代用として活用され、話題性を獲得。
- BtoCでは、SNS・EC活用で販路を全国へ拡大。共感型マーケティングで顧客獲得。
- BtoBでは、有名飲食店との取引が増加。エスコフィエ協会アンバサダーシェフから高評価を獲得し、自社のブランド価値が向上。



自社ブランド「なまけものcube®」・EC販売



「なまけものcube®」の自動販売機



農家が作る酒「徹（TE-TSU）」

〒756-0057 山陽小野田市大字西高泊3613
0836-39-8423 agleafplus@zero-yasai.com

関連情報はこちら ▶

